



佐世保検定



皆さんは佐世保のことをどのくらい知っていますか。

明治35（1902）年に国内で54番目の「市」として佐世保市が誕生してから、こととして104年になります。佐世保の歴史は市政施行のはるか昔から続いています。

旧石器時代から縄文、弥生、古墳時代に連なる遺跡群や、世界最古級（約1万2千年前）の土器「豆粒文土器」も発見されるなど、日本の歴史の黎明期（夜明け）と呼ばれるころから、この佐世保の地で人々は暮らし、歴史を刻んできました。

明治19（1886）年の鎮守府設置以来、軍港都市として発展を続けてきた本市は、戦後、平和商港への転換を目指しました。昭和30（1955）年には九十九島を中心とした西海国立公園の指定を受け、現在は観光都市としての顔も持ち、日々発展を続けています。

この佐世保について学び、魅力を再発見することで、郷土愛を育て、まちづくりにつなげてもらおうと、昨年からは佐世保青年会議所が「佐世保検定」を実施しています。

今回は、第2回佐世保検定試験の模様と、出題された問題を紹介します。

佐世保検定 佐世保こども検定



9月3日、「第2回佐世保検定・佐世保こども検定」が、長崎国際大学で行われ、市民を中心に191人が受験しました。
今回から、小・中学生を対象にしたこども検定が始まったこともあり、小学生から80歳代まで幅広い世代の人たちが、佐世保に関する100の問題に取り組みました。

問題は、「観光」「文化」「歴史」「現在」「軍港」の5つの分野から出題され、4つの選択肢（こどもは3



つ）から答えを選ぶ方式で行われましたが、旧市内だけではなく、合併した4地域に関する問題も多く、受験者を悩ませていました。

7月に開かれた事前セミナーでは、検定に備えて事前学習に励んでいた参加者も多く、活発に質問が交わされたそうです。今回の検定問題は、そんなセミナー参加者のレベルに合わせて作成されたため、昨年より一段と難しくなりました。

結果は、佐世保検定の最高は85点、平均は昨年より11点低い55・0点で、佐世保こども検定の最高は74点、平均は48・5点でした。

成績に応じて、60点以上には「ブロンズ」、80点以上には「シルバー」の認定証が贈られ、佐世保検定の成績上位者には「佐世保の匠」、佐世保こども検定の成績上位者には「佐世保の博士」の称号が贈られました。

インタビュー



佐世保青年会議所
理事長
中村大介さん

全国各地を訪ねる機会がありますが、そこで出会う人たちは、その土地に誇りを持って、いろいろな説明をしてくれます。佐世保の人たちにも、「佐世保は見る所がない」ではなく、「こんなにいい所がある」という会話をしたり、佐世保について学んでもらったりするきっかけになればと思います。昨年からは佐世保検定を始めました。

インタビュー



橋口松江さん
(早岐2丁目)

頭の体操になるからと、息子に誘われ受験しました。
事前に広報させばを隅々まで読んで勉強しました。「歴史散歩」で読んだ所も問題に出ていました。
難しくて運を天に任せるところもありましたが、自信のある解答には濃く印をつけました。
おもしろかったので来年も受験したいですね。

インタビュー



森澤正子さん
志帆さん
洋文くん
(日宇町)

佐世保のことをたくさん知りたかったので、お母さんと妹と一緒に受けました。
すごく難しかったですが、授業で習ったことも役に立ちました。
夏休みに郷土学習教室に参加して平戸往還を調べたのですが、その問題は出なくて残念でした。
自分では80点の出来でした。来年も受けてみたいです。(洋文くん)